

論文内容の要約

論文名	The Usefulness of Double-balloon Enteroscopy in Gastrointestinal Stromal Tumors of the Small Bowel with Obscure Gastrointestinal Bleeding 原因不明消化管出血を呈する小腸 GIST 患者におけるダブルバルーン小腸内視鏡の有用性についての検討
氏名	中谷 雅美
<p>【目的】 Gastrointestinal stromal tumor (GIST)は消化管の間葉系腫瘍であり、胃に好発し小腸には稀である。近年、ダブルバルーン小腸内視鏡検査 (DBE) やカプセル小腸内視鏡検査 (CE) の登場によって、小腸病変を正確に診断することが可能となった。今回、我々は小腸 GIST の臨床的特徴を明らかにし、DBE、CE、CT の有用性について検討した。</p> <p>【対象】 2003 年 11 月～2011 年 12 月に原因不明の消化管出血患者 705 名に対して小腸精査 (CE や DBE) を施行し、外科手術の病理組織で小腸 GIST と確定診断をされた 12 例 (1.7%) を対象とした。</p> <p>【方法】 小腸 GIST の臨床的特徴、内視鏡像、腫瘍の大きさ、部位、各検査法 (DBE、CE、CT) における検出率について検討した。</p> <p>【結果】 12 例中、男性 8 例、女性 4 例、平均年齢は 53.6 歳であった。全員にタール便や貧血がみられ、うち 6 例には輸血が必要であった。DBE、CE、CT での検出率は 92%、60%、67%であった。DBE は壁外発育し特殊な形態をとった 1 例を除いて病変を指摘できた。7 例に DBE 下に生検を行い 3 例 (45%) で術前病理診断が可能であった。35 mm以上の大きな腫瘍や壁内・壁外発育型は CE で指摘困難で、反対に小さな腫瘍や管腔内発育型は CT で指摘困難であった。</p> <p>【結論】 原因不明の消化管出血患者において、DBE は小腸 GIST の診断に有用であった。また CE と CT を組み合わせた検査により DBE に匹敵する診断が得られる可能性が示唆された。</p>	